

いいわけ / ショート×3

ils2

## いいわけ

---

『私の心は、此処にはもう存在していないんだ。』  
今年初の最低気温を優に下回る雲一つ存在しない、煌く星空の下  
ひらけた所にある簡素な公園のブランコに身を預けている二人。

間が途切れて訪れた二人の沈黙。  
返す言葉を出そうにも、この場に相応しい言の葉を思いつけず  
足元の地面を見つめながら、地面を足で蹴る度に鎖が揺れ動いて小さな音を出す。  
それは小さな小さな、今にも消え入りそうなか細い音色。  
その音に被せて発した、震える自分の声。  
『…隣に、居るの、に？』

『そうだよ』  
流し目で横顔を盗み見ていたけど、  
前を見据えて平然と言いつけた君の顔は憂いを帯びているように見えたんだ。  
見るに耐えられなくて、月明かりに照らされて浮かび上がる  
白い吐息の行き先に視線を移して眺めていた。  
他の言葉が紡ぎ出されるのを期待して。

『星空をみて』  
言われるがままに顔を上げると、今にも吸い込まれてしまうんじゃないかと  
錯覚するほどの広大な夜空で視界が埋め尽くされる。  
大小様々な光が黒々とした空の中から点々と明かりを発している。  
時たま吹き付ける冷えた風が顔をなめまわすから、  
その度に瞼を閉じてしまい星の姿が見えなくなる。

『あの星と、私は同じなんだ。』  
言葉の意味を何度も何度も反芻しても理解には及ばなくて、  
星空から君の顔に視線を移せば、  
真剣な眼差しで見つめ返されて目を逸らしてしまった、  
真意を汲み取れなくて君の思いを受け止められなかった自分。

『今まで、ありがとう』  
ブランコから降りると同時にかけられた言葉。  
かける言葉を躊躇ったせいで、どんどん足音が遠のいていく。  
その音に混ざる、主を失い小さく揺れ動いている空っぽのブランコ。

君は、いつから過去の人になっていたんだろう…。